



病室から撮影した空（TAKAさん提供）

# がん闘病中写真家作品展

## 銀座 病室のベッドから撮影

血液のがん「多発性骨髄腫」で闘病中の写真家TAKAさん(58)（本名・高橋 貴久男さん）の作品展が、中央区のスワンカフェ銀座店で開かれている。展示作

「カメラは僕にとって生きる喜び」と話すTAKAさん（2日、中央区のスワンカフェ銀座店で）＝林理恵撮影



品は、主に入院していた病室のベッドから撮影した写真約20枚。TAKAさんは「病室の自分にしか撮れなかった写真ばかり。生きる喜びを感じ取ってもらえれば」と話している。

TAKAさんは大阪市在住。2016年に正常な血液細胞が作れなくなる病気「多発性骨髄腫」と診断され、「余命3年」と宣告された。入院後、病室の窓から見える朝焼けに感動して撮影を始め、「病室写真家」を名乗る。現在は在宅で抗がん剤治療を続けながら、

関西を中心に写真展や講演会を行っている。

展示会では、傾斜45度に固定されたベッドの上から撮った朝焼けや夜景などの風景写真が並ぶ。車いすで移動しながら、1メートルほどの目線の高さから撮影した院内で働く看護師などの写真もある。入院生活で5000枚以上を撮影したという。

今年8月、余命宣告から3年が過ぎたことを記念し、作品集「病室写真家TAKA 傾斜45度 高さ1mの世界」（丸善出版）も出版した。TAKAさんは「外出できない方にも作品集を手にとってもらいたい。がんでも全てを楽しんで生きていく自分を知ってもらい、生きる勇気をお届けることができたら」と話している。

13日まで。午前11時半～午後11時。土日は休み。